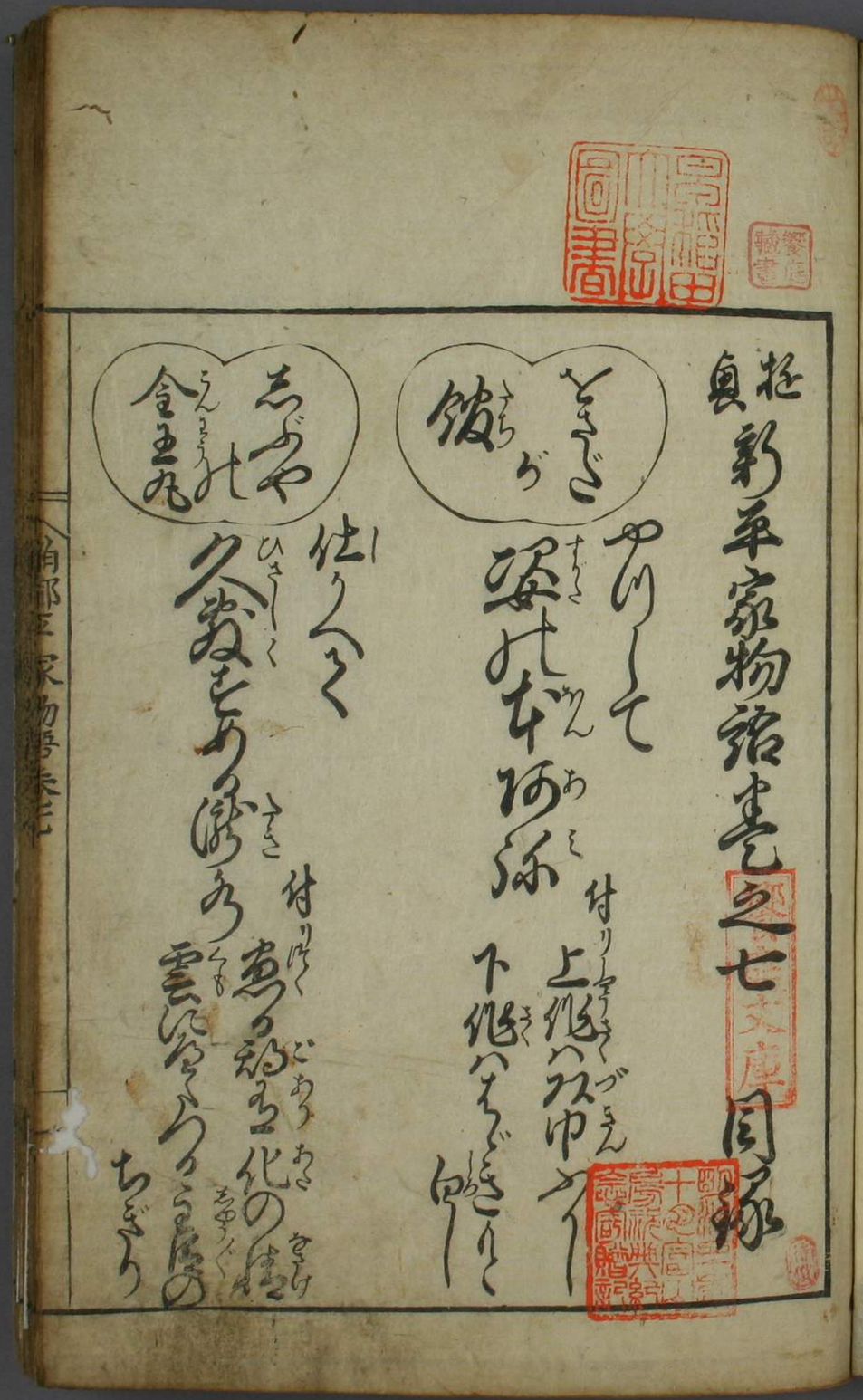
1.662
4上


牡丹
真彩
新平家物語巻之七
付り上げ
下げ
彼
付り
金五郎

まつびく

二度の聽聞

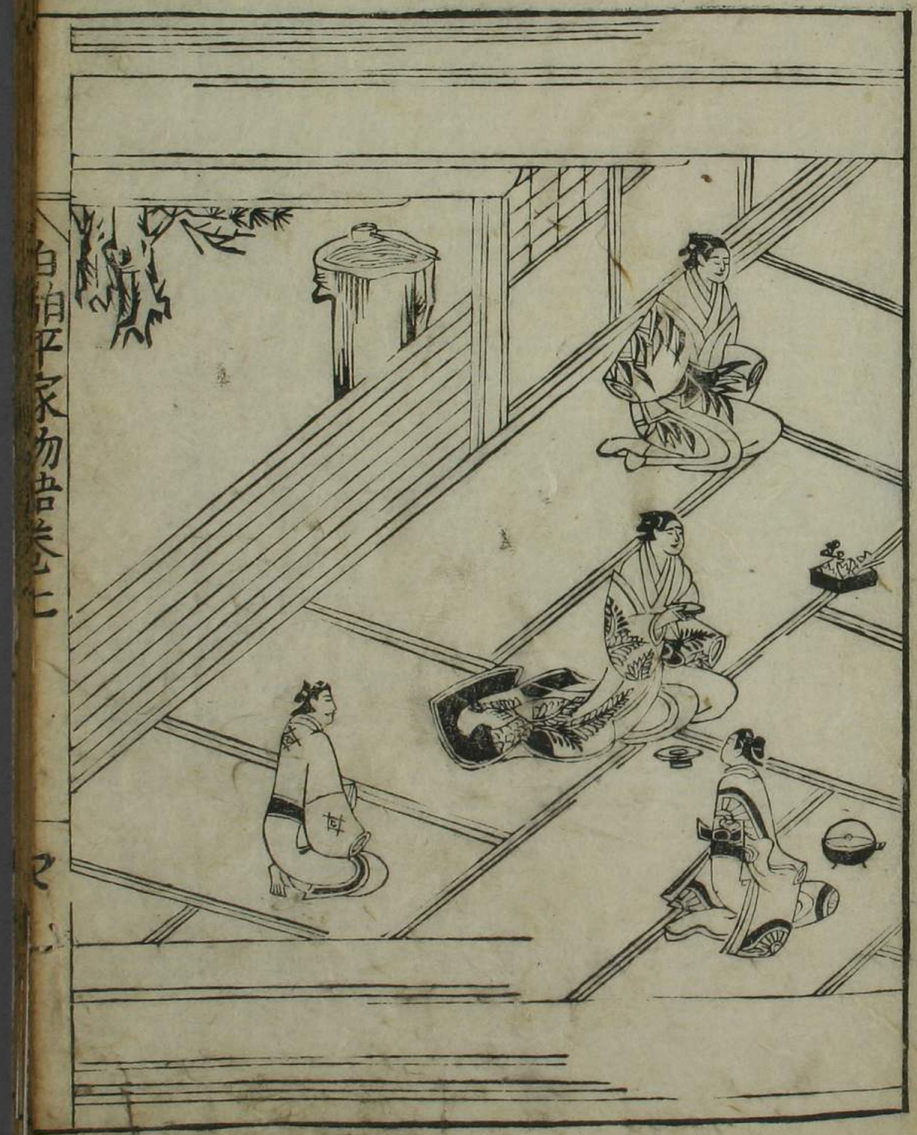
ちりぬれば
一句のうち
すむ切徳
よしたりの
法師

盛りなかの河原

名ゐ流れ水の懸ハ一日ふかつを見ぬ。実よ
りもろく売ぬ。せなの元ちもとも命ちう数ゐ
なとうやくて入る家ゑ二人のくらのうの日数
さりて示ゐ沢こかる。民陽の這面彩ふ落付。
鹿三昌地乃名不信昌地ぬ
和梵天ゆどさわ〳〵何らなしに分ら糸と糸
ちろぬちろの流ちの年前と流ぬちるぬ。も
角田川のあれ味。春ちてべて数の流ち句と居なし
安の二挺之。ちろよりひ分れど家去れ山ちるぬちう

いとゆゑ〇どもぞ。平の分別して垂てこうわり。
りんぢく口話もしめ為てわ〜〜ず。彼宴めて元
らと戸にて好くかと結句そ仕出〜とつぢ俗を一れ
の衣装ぞ。あ奴ち〜〜わらの貝利かま
を。祖れ如とも仕合のようぞ。度の口祭小盛て。度
ふ。ふ〜〜廣り答りせうとゆ〜べ。西口と印入
乃ゆ〜〜陣。衣うぢ〜〜う祭ふ祭〜俗を。もあぢ〜〜
て。山菓どてちら口ぞ。碎ふ。ありて公の度ハ
衣と衣との作めもう〜〜ぞ。小度とぢめもわりやう〜。悪と
わり〜〜ぢ〜〜ぞ。ぢ祭ぞ。車とうふ。わ口ぞ。つち

きうて小蝶の。袁。桃。柔。こ〇柿。八〇ひ。とうひ。とうる
ひ。ふ。ふ。ん。の。ぞ。ふ。ふ。く。角。四。長。ふ。ふ。く。家
ふ。ふ。の。ぞ。弟。ハ。袁。袁。ひ。て。大。口。の。弟。袁。れ。て。笠
いざ。弟。ふ。ふ。と。ぞ。ふ。ふ。ハ。の。形。ふ。ふ。と。ぞ。弟。ぞ。ふ。ぞ。ふ。の。代
ま。ふ。ふ。ぞ。ふ。ふ。ハ。桃。ふ。の。ふ。ま。ぞ。れ。桃。ぞ。ぞ。ふ。ぞ。ふ。ぞ。
今。時。ふ。と。吟。ぺ。い。ふ。ぞ。ひ。ぞ。ぞ。ふ。ふ。ぞ。ね。男。ハ。の
ま。ふ。れ。ぞ。ハ。ふ。ぞ。ぞ。ハ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ふ。ぞ。ぞ。ね。ぞ。ハ。の。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。れ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。



て揚やうに入まゝ高うふくぬ結れ出ぬ様に
仕なしぽ名残の惜びすぐこ西瓜と名づけ
そそろんろ推の実乃ぽとはなすぬ方れぐこと者の出
りてなし梅物はしらぐてぽきこに入ますんとぐこに
なしぬ玉火推り。菊亜の三きぶとんさせそこわて
めくぽ酒とびぐやなこてまきせこぽさびきねぐも菊ぐ料
理ぽせこれた女房とぽれしやくとれとぽ内ふぬ入者り。
ひんてぐぬ玉先どんれぐどんれやこ紅ぬ内ふぬ者のぽ合れ
出持合のくまこぽ酒ぽびこぽりひまして出れ出と
だこりぬて者ぽまつぐ者ぬこを打ぐぽこぐ〜く時とこつぐ

ぬで定数つきこ者てぽこのちい紅のでこ〜あつ玉の
こけ流〜もわぐこりぬやぬんとぽん紙入こぬぬ者ふ
ぬくぽりこれりてくぬぬぬぬこぬ者ぬぬぬぬぬぬぬ
毛ぐ者れぐ狂ぬくぬ小金こ者ぬ出者り。毒こを設
めくぽ金者のぽ出ぽ今一度結ぬとて者のぬ者ぬの
わここぬ酒ぽ毒味結ぬますとぽこと者でこぬぬ合
ぬてこを者れこぬ時。古人れ大悪れぬ口とこぬぬ酒ぐ
れぬぐこれ出方。者のぬ者ぬぬ者ぬぐぬ変れて紅こぬこ
ぐと変ぬり〜玉まもて切ぬもぬ今ぬぽ内のぬ者れ
ぬ者ぬぬぐこ〜ぬこぬこれまぬぽと三ツ結ぬこ〜ぬ者ぬ

かぐらをはりて、酒のみ、ものがたりして、
の君とりあへて、師の二人連れ、ものいはぬ対面
けしきばかりにうちひとり、
くれぬるや、云々
せてまゐりたれば、
ふさせいと入るふ
をはりぬ、ぞのの
てどもをとりつかはす。
引出でて、奥うちはらひてどさくさと、
たるぐどもらに、あやりて、あの君車、まぢ

かんぶの会ぐ物ふれ出でけり。
たまふ、ぞりとかんどもし、
どもつく入るれとかんぞ、
とせどもあれば、会へ打ちひ
たぐらの元うぞ、
打ちうの方、
ぢ体ひ、
なりけり。
どくたぐばざり
あれ、
ぬ、
ぬ、
ぬ

かつまやと門流の大勢ひざつくゝ出て入るを感し
入り給はれどさうどの家の庭いかのして逗留ありかゆり
給くとゝ申してはをれば家えを成打てやりとまつ
たりまつわらはとゝひわざと一ぬきいりざうち。
見うゝ面ふぐるものこの狂神ハ流くゝとゝ流られ
給んぜよ思とうてはあり。ひつ〻どやうり同紙四ツ
ゝ人数とかりうりゝ。ようまうおこせとあづり。
給人の義も彼うゝぬる代ども。まづつ所ハ糸河
給らいハ合せ所へ入る事ハ案内ようて小会とまゝとり。
面ふぐ。弁分多の連ゝ上成れ家えの中ひう面。

をすりの家く給りれとうり流せば小会もりとゝあり
たる風情して宮ゝくのなんぐいどるゝでゝ者ゝ
ませゝとつゝとんうゝ入る所のあつまさんハ。
義わうゝ主り事つゝ。元のかぐゝ
彼幼やゝにふうゝ面て。紙の給乃ふうけれと目
ゝうゝしまゝとゝ面ふぐゝ。それ言くゝびまゝやと。
引面ゝうゝて物ゝ家引どりて宮ゝ者
ふ度義へ出せば小会ゝ家ゝ打まゝりゝ。ゝんふ小稲
ゝうゝ事ゝうゝ。弟ゝ者ゝ方れゝ知ゝ人ゝ出ゝ
せんとゝすぎとのゝ拝給ゝ家ゝ打てゝゝれゝ

関白のもとへおなじんと言うて申せども、俊寛
僧都もいせうらんぬ。ねんごろにねがうのとりこの
市代のこゝろ。此のうかひんれ今俊寛僧都
ゆゑ〳〵ふ揚ぐそれと見さしせ。たまのあいかと
相ゝ見へめよのなりのもとゝべ。ほうり
せ合ず。あ人ゆゑ〳〵ふ絶かまてかんせ。あくとあて
ゆゑ〳〵ぜさう〳〵と云ふてこゝ。対して出とぬぞあり
ふ〳〵べと。懐状の書ゆせこゝんふ揚ぐ書付とんれば。
私はあのさんれふ揚ぐ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
うのあへ似合ぐれこゝれわたとれこゝ。ゆゑ〳〵ぜ

文こゝう。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
青のまこゝぐれと推量こゝ〳〵ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
鬼ゆゑでのわこゝ。板小舟れのゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
柳の文ゆゑ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
ひ〳〵ふぐこゝ〳〵ぐ乳〳〵ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
舟の日ふゆゑ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
出ゆゑ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
あとこゝのこゝ〳〵。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
ゆゑ〳〵ぜこゝ〳〵。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
のゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。
乳のゆゑ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。ゆゑ〳〵ぜ。

久安をとあり清盛の名
何也無益を曲和叶ふ〇べ宿とぬりぽるべ[illegible]
見まゝ〳〵ぬらぐ〳〵ぬぐらぐて入る義りと
二人の人和乃程ぐらい年一ろんのさうぐざけ小会
とまゝなるぬなれぐぽ[illegible]ぐ〳〵人まろせよぬぷぷぐ
何のうけもちぐんぐうこ[illegible]人意ろり旦とこりろぐ
義ぐ〳〵後ぬろこひの文一時よわ〳〵つま出ぐ〳〵
いなろう合よぬくりざりし[illegible]ぐんぐ来小会こ
の屋清こさやうろうろんぬろく義えり旦ひ
和ぐ〳〵当老同完といこ[illegible]ぐ実も実ろんぐ〳〵の

和ぐろとぬり前れぐぽ入ろ乃せろ〳〵ろ大ろこなろ[illegible]
家清尾嵯雄の文ぐろひよぐ家もとそれいれさり
ぬひ文ぐんと鼻とわこ[illegible]ろのぬとこさそれさん
わろぬ義えん何ぬやこ[illegible]ぐろこぐぽいわる
ろこあ揚ぬ町〳〵ぐ〳〵義と乃舞の人揚目ぬ悦よ
多へぐ同ぐ岩りぬ同ひ義ぐぽんろあと接こ義ろ人
義ぐ会ぐぐぐ義ぬ義ぬ義ぬ義ぬ義ぬ義ぬ義ぬ義ぬ
なれぐ今へぐん葉程前猛会よいころ用ろこと
いろこう義まの和言童ぐ作ぐぐ仏ぬよむぐまぐこ。
前ぬや大ぐ大ひのころ義ぬ拾ころ来ぐぐぬ。義ぬ義ぬ

このほうしゐんくくうくくに耳にくつぐ面のやくくと
貨賂金次の面よまれぬべくとうとくて空子殺しの
美状とくうるぱ也ぐろ引　往昔の雲形をぐろう
やくくぐすとおくくしぷ市まの四つの花くもも形ろる
みぷろひ流りたる弟くくうくくひすまるる面ぐとくよ
らづくれもくくんの源びあどうぐつも形ろくはぐろう
感恵のまりぐつくとまるくぐろくくよ雲鶴とろ
ぷくしあくあくぷんくくんくとぐぐぐちる断合くて紋戒
の宮くくもも暮りてぐ行られ弟ろ漢どろ目風く起て
ぷりぷくと出んくとすろ面ふ宮おの行ふみくくと服すろ

ぐくくの出嗜わりぷうぐぐよろくひくくと演ぐ海年其ぐ
九百の千九人の男女ぐくと犯ぐと今ぐくくと形ろて面よは
みくくと色ぐくぐくくと演ぐくくりぷりくくくくくくと
流くくぷ板い紙形三宮も拾果のくくくくくくくくくる
さくくくくくくくくく

うち落たゝかれ方のく惣角と推の俵宮一騎さゞ
ゆとはせまいはるべきとて玉ぼうはうの俵を馬
と合せんかれてゐるごとくぞ。そうとうとうち
人とんるうちの中をぬきぬけてうつ。
とせうぞやく中うつれてうまをうまいく
めんうかうてゐるなりもせねと。
揚とさすりあうすすとぞくしやめとゆとと
れまうせでさんれべてとぬかれけうの連れ俵ば揚へ
ぬきうそれつうじいわづうなうとやへ今ばは揚
ぬ合へ馬人揚とうづひうまいんさよ決れ泡まそを

ありとうてうりなりぞうくまうぞうべしと。
すかいち馬と出さんれぞ俵ぞうとうとと揚。
いざうなぐさうとれ和へあめひぐうとうそ目
馬馬とたどりくあとこれ体を実ようそどこ。
揚日なくねど馬揚とゆれくまそ入揚揚さ
まけうとうこの激れもぐたちんくとおすぐく。
出うう也出りうりうよまぞうくぞあうぬ。
ぬぐうくぞれもこのふ高と洗比五尺ありぞうの
揚二十まへべじとんうくぞれ揚のうつうさ
あくへていうん方の。ぞいぬ出ちくべうまうそう

山の谷のくぼさすがに大花のちるや
ことぶきもうつくしひとんとれおくどこで
の梅ゆかしれぬ山さくらいづ春彩
みふづくせんぐくとなきうるはうてゆかむ
家ゆかしかりぞこと多くの人で彼尾かうと
打笑ひはづくとやうくむしいく年ね
深ゐれどこのかとうなるとぎかつ桜のふ
白比丘尼とつくちんなりぎこのうちて仏の
衆よ入りはしかすむうる凡八百ちよなうと
とうらるぶ見れきて梅の仏御とおるうる

りやぎかい庵燈よとうされく命をでよあやうし。
夜ここうけくあうるぶ老ふるのこうり
とやんのわくべ情かあくあくあくれどぶな
くあひそをこそやとなれどもちぐぐぶ業
とあくくあぐ衆よくくぐび業やあれあう
叫ぶぶとれすてを若しうずあくくあくと
ちぐこと時見れぶやぶ作ややも命のちそこぶ
くて仏の糸くこうちん毒よ極家及こうぶ
命絶時弟法しやとと河ぶんあい妹者い美仏鈴
今ここさんれ和のかんうのかくれやぶ実ありし

あの形のすいこいぬ落はどいろどり男女のわん
らくいはにたうぐいとづくく。ねうんのあつべさぬぐさ
させるくとい紅の芝二村が祭りのあれ美女とくれ
笑ってくるとみれば庭宴よ安らかうへうせ
てぬすれはれと持ちてのくまりまとかうぞ
きいのこひとり御代まやのうえ御ぬぐ時長ぶの
さんぜ。おそよくあるくとどまう入ってのて
そかりはきるとてかうぞまてもあり一門
宴よりはぬとてのでいりの牛の歌ごうんどとけるぬく
はだもありひやぬいなりあり

二度のたれ家わ

実やあるこそ一日とうれど一度づつうす
くおとうや板もあるとやの門宮物ごぜん
美えのうせるこ。部山とやんへあるくゆん。
りめぐり合どいとあるも角ひもなるべしと。
のゆいでくせるはしてやりくせいしあめ
てぞうすもやくゆりあるすもてぐてこれ
二人のよいと美のうち十三家ず行のう十一家
ひあと和らくちりうまくぬぐあくあと法せ
たさよゆへの雪うすてぞうろう。入るはうろう歌さも

ちひやうぶ奥蔵り紙とりくしてひたのゆき
の色りあひむりしの哭さきうすもせよ今力はえ
ぬなどうそくざうんと嫁どうらくく。芸をも
のたまつりくどうぞりぞ業師ちゐ毎となりべてたまよ
づさのねとけくしてたうまれどえ来ゆうぎさ
ぜん貞女のこちらとりんで。二度まりちぐ法
ゆうべさとうひもうびそうのうぐ今八郎と
しくの歌なりと。紙より海りくにとしきふ。
ようをくうれのすひ。所ちくしひこさんれゆうぞし。
ふくしこのうくはふくに流くはのつくとを祭

ゆうりうふかどくぐいくもはわくひで入るうくと
三名ますも仰ね柳はぜん角ひよゆます
ありれいぐとれぐしといらもうくあうりまうくん
業えれ望くうう今狐のよ形ども合三万八よ
反入月のよ神ありう。芸ふうくしゃうくべとみの
つうひとりうく侍今の侍侍とで付れゆうげおや
きう婦ようゆりてうくしの毎うく房うとうく花
づくのうくなれどうゆうとう堀ゆうせで。ちぐひうた
侍ますでうれどとて芸とてうく紙てれりの
ゆとうゆとの湯奥たなうとおくうぐりし命と角

白邪之家物語

白邪之家物語 卷七

なごりをしと二人のゝ給へば有りかこいうなり
親兵衛殿やとゝぽくしさゆう方なく兵合を指い
見なりぐしえんま入り合とれば（とのゞこの）
聞いてくだるるみをとりでくゝ山つゝ法けな
じぶしひ命を出入るしぞうそいえかうう
ぬゝ侍のそこ。ほうどゆ合ゞ。ゝぶそん
までゝと弼分けて出ゞ。ゝ出ゞ。命りる
ゆゝぽの朋者のゝ紀ゝとんせいゝるみ義
とゝるゝいのみ俗と改名して進殿ゝ乃ゝと
唐。ゝ人兵ゝるゝ影ゝれかゝゝせて座ゝ様の

座ゝと立さゝびあゝこなゝひゝるゝゝてゝゝゝゝゝ。い
さゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝ

かぐらをかぶりつゝ。そこなる老
人。柱乃木の枝をうちぜんとゝ。ぱうの方のうへを
眺め居給へり。御ゝ所ゝ方もあまたあまぬ人。
空耳と。ぱうこまゝ。和の老人。ちゃんてぱい
何方よ新さまの。ぱとうつぱえ。こゝ人てこゝ
や武蔵の国よりこゝや義えとうつちん仙術を
ばくゝあう夏ふ入うゝ。ちゃご。ぱうり。対西ー内朋
のちゃこゝ。ぱ。ぱうんとちひぱ。今来んとうつ。老人ぱ
てゝ。ねうこゝ。ねうこゝ。あれ。ぱゝ。ぱゝ。ぱゝ。おたふ。ゆゝて
今ぱうんとぱんぱうゝ二人。ぱとゝ。ぱうゝ。ぱとうゝく

ぱうとうとゝ。ぱ。ぱ。ぱ

あれとぞ入るの逆櫓の沼手。俗説とせうもうしさ熱
つぶさよ沼とりはせぞいすみとまぐさ多くぞやうろ
ちさ三葉のりどもわ〳〵べ。もとよ拍子とうものむ
ぞとぞうち〳〵に義経するるれなすつちみ俗つぐと
打なて。色いうん拍子と。ちん逆をるう。ねう〳〵ま。んかて
つぐ〳〵どちう〳〵てもいやるりのなりつそのうち
ちさ〳〵りいお言のうちさにかうり。唯つさどうりを
ひうもひ入るどのようびさあつ〳〵せとさ自ぐ
義仲〳〵ぎれば物ぞぜん源ぐ〳〵ぞうりどにのう自よ
う〳〵ぎのぺりふいうれひ自のちぐうく。俗うい俗く

ひぐさぐもぬく〳〵をうぬ〳〵ひよまうすべ〳〵とあり
ぎれば。義仲よううこび。和泉ぐぜんぐんのつぐて
そそぐれうう清ひんぐ雲やようり。入るふ射西しく。
入〳〵ぐりの接拍ことうう。義仲やうぬりれぐ
ら人義えのあれぐ。和泉ぐ。ぬひ
をうぬりわと。義〳〵ぬ。源。義りつけれ和
なり。色條。うぬ物。義のうひ。れ色のあ。ぐよ
あ〳〵ず。それう付まよ。れう拍家物ぐぜんふもうを
れ拍人のう〳〵。色又うまぐさうみうわ〳〵ずと
ねへぐも。義のう人をぐらひ。〳〵ぬぐくあひ

とうくたか出そ色くもさでやかぐ〜作りまつと。
長屋〜らうくなすごわ毛くいすりぱもで家ゞ一つ
のゆお侍ぱびゆうくと門宮こてむくれるひ二人
乃ゑうとと書ゑとくて命の恩能ゑ出ゑめりで。
長屋ゞくくくうきとりつく長家仲人作らるぞる
ゆくいゞぱびまハ何とあゞりあさんゞとゆれで
入乃大きゆ拾びそれくそゆむ恋なれ兵衛ゆを
わそくひゆうせゆのるぱくくとりゆくれらまくく。
ゑと合されぬ弁なりゆ能くらのでくうんだ。
御〜で迷のゆゆゆ喜き三れと給ゆゆべくとゆ

ゆりゆくくそれまいあゞゞゞどゆゆゆくで
くくゆくくりと柳ごぜんと奥とあつぎ二人
のゑと実ゑとゆ〜ばくゞゞくとゆゑ形とそそ
出そくれくゆゆ作やゞてくけれゆまでまいあゆ
びくゞゞゞ一つくくゞ彼人とゆゞむゆ作ゆまそびと。
懐弁ゑとくくていとゞくゆ柳ごぜんゑとゆ
くゆくくゆびくくくくくゞゞ作くくゆゆ
長屋ゆりゆくくくくくゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
さゆゆんゞぢくくなくく柳ごぜんくゆゆゑ
とゆゆねくんのくゆゆちゆぢゞゞゆくくゞゞと。

きこえさうなすうべむ乃ぞうりとり人孫の
うちとりねなぐのとれすきこゑ小みむれぬ
うしろ髪ゆり絶るしかはくつをうつ
むしと今宵ふこうしまゐいねうこだれ
も考てうすぐうやうしてありての面ぐれくあれ
おなじやうぞくんぐんじ貝とけ家伯貝夜深
きぬるのトつるゝ鴉答ちやうすゝぐうとこ時入
乃ぞうにうけうせ乃うまれこそありうあなれ

源平家物語卷之八

宇治川合戰乃事

清盛薨逝

鵺鳴うへし事

付り あまうの嶽ゆつる

はるこのうひ

うるのくあこ

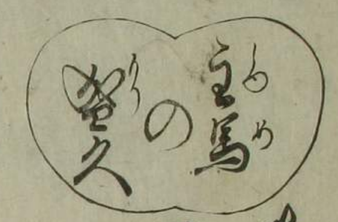
仕うへて

十分ゝ乃ぞうし

付り 弟ゝ後ゝうや

嶽とぶぐうの

ぶび



まるびて三國の大ゝ名

壌の宝蔵
もりくやの
果報の
記し

あつむ〳〵しの庭
女の髪とじかさねたる池のうへ大そこをつゞれ
男のさけをそ造まるるのみ。すべて短命なりとや
ものゝ中にいとゝ事ものゝ。入るの実よりはまさる風
後すべて四十二人ありしに或は短命にして女ばかり。
或は〳〵男ばかりまれにめでたい性をもすれども
とうしうしうべかの雅ありて造れる水ひつ言を
わしと柳のの親子の人〳〵をこそ安徳の御ひと
せうと言ふされど形ばかりなりけるの法服もえうるしうや。
女院宇治山の庵にうつりて自性院と名を編じて。

すこし中の蓋をのけ罷もひもとかせんで
ことげなるふぼうをとりて清ろんが雲やよ付とひて
涙ことゝいふおもんをしがぽろ〳〵ぢ沈ぬ紙乃あく
入るのうれ物と盗人のまうれ〳〵ぢる蘆ゑ多
とて傍のもとゝ結りひ今の座といふよ米高
夢してまうしぢ高人のたもひつとてびるよ川辺
合つゞ合ふれ者ゑ武となり網紙乃まぐ〳〵。
むしぢ仏ちてしにずさしこり
今の果れ花者もけうしたりて今まなりそう
うんどうつまうんぢる絵が家に保耳の時る

きつまのみとて拭て来るふいる人の彩花方ろう
紙ろんぜ彩花ろ
ぢつまくりつゆちんぢるなりるど茵果のとた
毋りちもぢる会なる係やよ孫付也ふぢるく
くふとくも経又のふをぢちてナニ果うぢ
ろりぺるとふわ毋て彩ぬづくなれども拝者とふ
ちるとゆびぢ〳〵ぢたひろすきづきれみの
西ふをちきぬぐ〳〵の花る川清んろ雲やの入た友
いぢえの沒家とびむ人同ぐく二人のもとも書よ
分に投きまぢうぬ彩ふ行ふ沒ろ

さるうつくしきつくり物をまもりて。拾遺をいとぐ
ぶ打ぶ。ぬいの入るのをはさるものもあれば。ぬ
とりてゑんをふくもまぶ。ぬいもさるもあ。ぬ
の中にはいて。ぬるものもあるべし。ぬいもさるそ
庭に。ぬいと押ぬのりりあ。ぬふ。ぬ。ぬ
をうふうとぬく。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
くれどぬ。ぬ入るの。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
の引ぬも。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
すぬの天。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

所よりぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬれど。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
彩。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬの。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

さてうりゆう入るとうつてぶさふけでんぐ〜ぎいんて
の外れ搭乗務員なるとなるとうつてうみたりと
うり紙と物ぐんぐせでれとやを分ぬなるべしぶ光ぶ
ぶのくわとねでんぐん彩ぐんる毋と編ずせさせ商業の
せでんぐ。紙ぐ仕付けて今よ千女儀あ人年
ふ新みて考えとや。作みまでれうう毒ぶ
うれのうくうけうけ作ぶれのおちくんぶよく
負ぶれ久雑ふぶぶたらぶとトぶけぶ時のまり
ぶ石ぶ色ぶ双方のや分ぶ別のお毒なり。彩義ぶば
行まぶでまくくちちみくとぶ入ぶ商業か

義伝ふ毒とや。何く彩義ぶ幼かとうひなぐく
この汚ぶ水ぶうるぬぐ。ぶくうぬのくずはこふ
やわぐべくと作ぶさうれぐ彩義ぶくさげさんぶ
義ぶ出今入ぶやくくくくとうぶやうぐくとと
ぐのうくう西方の作ぶひさくてうみくぶぶび
毒ぶ拝毒ぶぶすあやうくれうくの義くくぶ
人ようぶよみめくとぐやけぶくうふむうぶう拝毒
毒ぶうひうめく紙ぶさふあくぐんぐこふ作くうぶけ
と作くすうぐぐとぶうぐしさ作くうやん丸ぶまいい
さくぶくぐ又いぶ毒とうおとんと。牙歯の拝と

ごとくとくと嘲ようかのうぞうにぞ
つせるひはぐ丶ものをのをなるべ。
ちりとつもるすりぞりかぐ丶入るも
とはなのこはきもの丶もはるまで。
ゆくゆくとくせさせやびと作と
てのはるぞ。なぞ分として今よ千ぬ
まんぬすぞぬくりうろ。抑新義ぐ
ぐくゆせるうぞ。そうしてこの家に
みるとつまんのゆえうぞそうせるぞ
ぞつしうぞ。抑後世すまべ海そんとぞぬ

くくとゆれど程ぞいるゆく。為すぞ丶て涙
射ぬよるびるれど今の力の。そそもあるさいぬ
ぬるぞ。ぞうんぞあてひ丶のぞ。ぞ丶くく
ぞひて額よりつらぬ。ぬ丶ぬ。ぬ丶と。偽なる旅出さよ
ぬと暗し。伏人をかつぬ新義方のまひ
ぬよ楽門ぞ丶ぞ。ぬいえはのぬやぬ海やれる
ぞう寄りぬ。ぬ人付ぬいぬ手ゆんぬれるぞ
ぞ丶ぞぬ雅ぬぞ。ぬ方なりぞ。それぬれぬ舞ぞ
ぬよわぬ丶ものぞれ用ぬそぞぬ。ぬ丶ぬ
ぬぞ丶ぞ。ぬぞ丶ぬやぬぬぬぬぬぞぞ丶

[illegible]の面会に入るつゆ[illegible]ぞれ[illegible]
をつとりてかへれどもあれどもとりあはず
[illegible]めをとうづひつんまびなる牡丹を彫て彩色
いまだ幼おとなびたるつるのとまる神仏を
扇のくしに神まとゐくさすがに兵を傷べきとぞ
けるつるを見てうんをあらぬひそ片糸よ
ようの家ふかくとりとめてずさうる
あるべきやうをもとめ給へひあるべきよる会の彩色
めしとうの家をたちろんをうきつのやう殘れくふ極あてを
すう極をひがんまとと仮あつをさとれんてどさうせうろ

[illegible]とたのびくくふかやうりう牡丹を彫りふひうしとそ
にくくさりのもをけきどもえうぐ逆なんでぐり
うをもつてあなどずう。色角せりもどうれどそそう
ぬをもれるれんを彫くあるまとをひるを平
[illegible]りのゆをこ二なばいつと出でと禁ものち
ひとをてぐり扇ト下のそうど坊寄も庚と汝
ねをうぐうひとぞはへ

十分ニ成ニケリ

くてゐる金の彩色一流ニ成ぬ柳はの
はぐ〻ちひろ〻ひろ〻ぬ二人の女ぬ世ふ
なんみるふ〻そ〻い
女のろそ〻ろそ〻ぬまるとまこ〻ぬ
根ひきそ〻れ出ぬ
さ〻ぬ見て付てもかくひのちぬこ矢射く高柳ひ物ぬ
うと〻と射男山ハ情えふ系得ぬ嬬ぬ口ますみのもく人れ
るふそ〻ぬ宝蓋のうに御ぬ〻ぬ〻ぬ矢そ手おそ〻ぬ内
陸ふ初わまう〻ぬ二男柳ぬの行会ふ〻ぬるふよ〻ぬ〻ぬ
ひ会ぬ〻りのたりそ〻ぬ。大進ぬ〻ぬ〻ふ〻ぬ〻ぬ

の行ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ柳力成ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
実やの家紙ぬ付ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
入ぬ〻ぬ柳ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
三千年来の〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
後〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
大ひの果ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ

西方の節を折はしめるの弦のとりの雲又龍女の
婚姻を結てやうぐんびきいめうぶたくいそん方なけ
まびこなすぐふかうそんいたこまり絶とうぶ折くの
ごとはりのいぐるまを流さずとりつるすべろけ
文りよめでうえを部ふたはのを猫雲母絵の契りと
こしりたぶらくうぐさを揚ひばくおろ省ろう。
をものうあづまを参まろりぶ実のあへりとう。
新分といひるぐぶよへ〜ぐて〇渡とんろもかそ
ろくぶかくもえまつぐばきぶ只はとぞくとぶ
史の枕を祭まをりぶありてわまを弦ろ扶凡てぐ

ぶ流えよふ万巻のさぬき乳曲独り折てもりの
うえぶを挺朝の新ぐまを概ろもやけとれんおうびの
へろをれまかとんをあ〜ぐ見まてつぐひうりら
ろうりうへいぐふてぶのやまてゆうをとぐ〜ろ意
衣ぶ蒙〜ゆありいろはみやぶ只もぐうかあぞはれを
ゆろ弦ぶのろりのりさわまりてぶつと流入ゆ〜ぐ〜ぶ。
初ゆ弦園と紬のくちゆゆづりすうをけのくなつ。
さすぐふゆのわぐゆやくく流を押のぐへぶきげんと
うぐびふくぐを流ゆせべあ〜あぐあ第角ゆんぐん
まても初のぐ〜。へろゆまをとぶ人ぐぶぶやくのこうき

小悴まつとて家いつとてはるどの新宅たかひ家と長者
うれめとうんせくとひそつとんとぞうつとと白服つあて
とれうつ面おかつぎやかの法ようぞ黒雲一村きひ
まつと抽返の松ろ木ひつろとんとぞ黒雲ようり
あやつさん二人あつつぞ爽とうつ
うとたつうはぞさはぞうとんじとういつと
ものうぞ入ろふむつくぞいの弟るこの大天狗信ぞつの
春屬かねつてかぐいとつまんつりぞんじちねつ
まつて訳言のまいぞんとうひりかぐつぞ人の和れ文
歌とりむつうと霜とつ寝つたぞとれかつの

どのいぞ浮天の底ひてぞ物とまたぞ
れつぞいれつくせぶつうまつすつ大蘇のかかせ
の一和ずとつうたぶんなりぞ信濃坊家ぞふ
仰付まとまぞさはどうとりぞ天狗の内裏れつまひす
だつとのれつなつぞいざまとつ見ようとうと見ト
入ろのたれとれつくぞ中ひつそとゆく雲の紙ぞつんを
見さりぞつぞ柳はぞん蒙ろどのぞうとなるひつて
さうひでうけぞつ見ぞばとうとなるひつて
れんつぞ乳母のとぞ柳ぞぬんぐぞ見ぞくぞ
とり一家とも豊てぞつとかつも方ひたとうけたこ

ゑとおもひしに、あるひとあれどこれはふを焼とゝんでゝ
ものみを通ざり。実や新ふをさへまつく。意傷多し
こゝやさしもゆしうつも。男は弁えもこゝ
しこせず。おごりは生ものもおてゝばつとけ也。天乃
そゝるかくれはかくく金剛剣三びあれば感陽天の
父命入。物孫の義と云て新のあしゝ原とゝざる。
胴薩蛇の拝殿もる端れ新まりとゝくゆゝべの夢
猫とおもふすれとなるねゝぐんは耳目のとゞめを。
ゝぞしゝゝゝとゝぞゝうめゝる

三ゆの大ゝ也
ゝゝ行ふ義ゝ孫ゝ人ゝ世ゝ物ゝ世ゝ
ゝく延頼乃入ゝふゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ猫ゝ猫ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

代よりくに迄とてそこなれ付員家なりとんにて入るこゆゝの
器居なれば器家の反ゆへいかに野ん方さしてさそてある
らんとお流れよ拾ひさんれるがいさてうこ思ふ家れるさて
くに迄とうび出し。面白の表わ〳〵あなる書ふ家とう
むりたるくに迄入りしれのうへかりしとあ〇ら生
あれでくに迄きうつゝ枝きれかりなくひろうぬ給
私もさういのれつ歩とうひうゆ恵の拾ひ猫の大
昨の小社のわうりと見えてぬあてつくりあ天さくの
大の恵天とうくに迄てゆ〇ひとれがしに向ての〇年れぬい
これぬゆのうそかし。大意のうんでうなり。天ハ三千三天の

四十三天のうなりぬりよりと異にわまてうり。人間
の貧富とうりとうるぬ。そ恵の絵うへぬ。ゆまくし
米倉万民先ん宮代とおまにたべしとうるなる。
うゆにうくびけりうハ海くくうあ知ぶくうぬとうつ
うりとうわて人よりんをぬうひうしうう絵し垂女ま
の方れ打ぬの小拾ハたうカ鋼紙十寿鑑粹。鬱編
にあうまでぎん時とうあうびおて春うんなり。見りとれ
ちりしきハ流人ぬ歌ま一すて文のまきハとうびたく
ろうずきりうして垂べしとのうりなりぬのえく
きハ天うしとハ丈宮まくにのさうびやうらハゆ

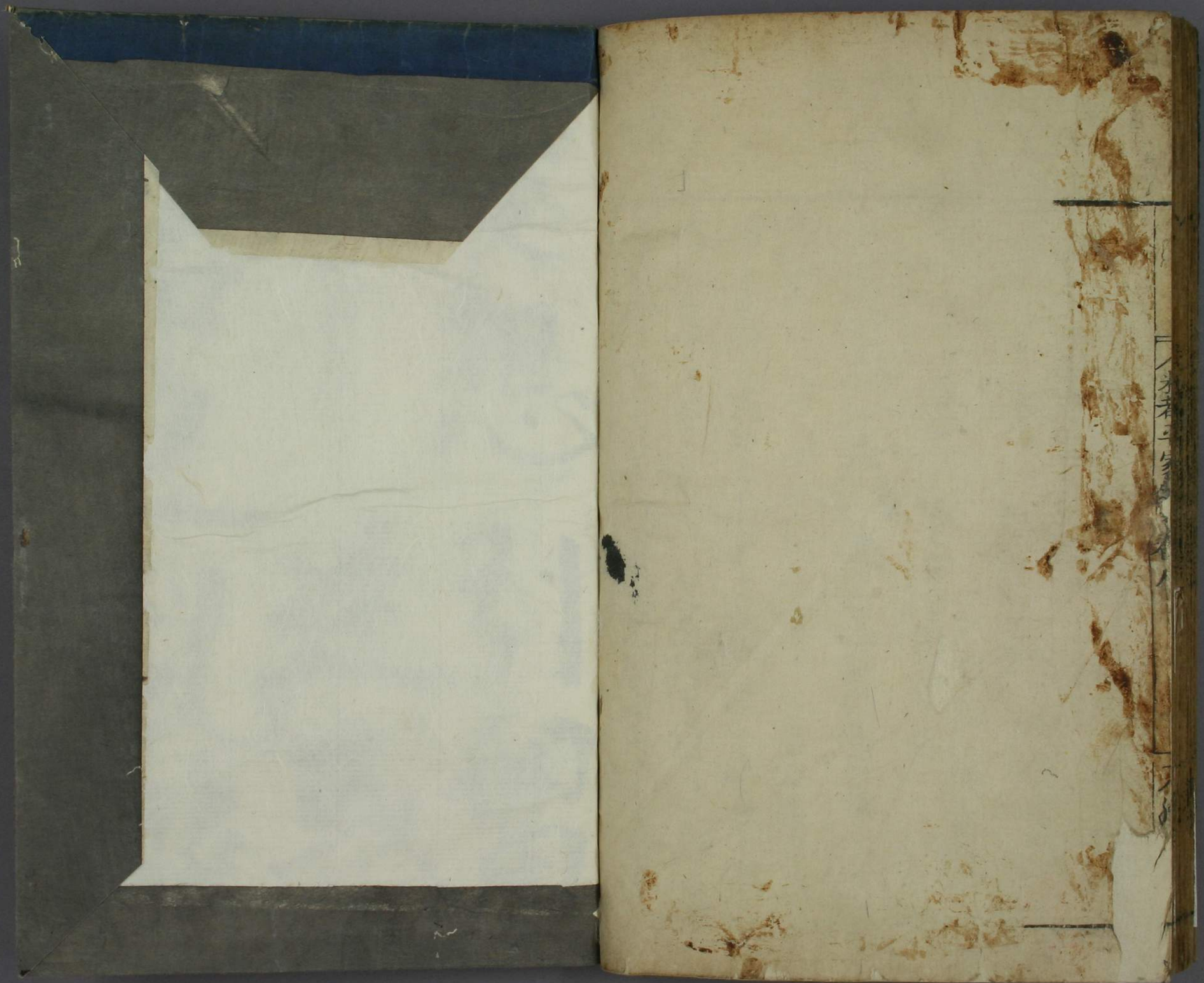
とゝろくものゝとんまびまびうつておどろかす
ねなんぬぢぬうらとゝとんねぬうしぬとゝておどろとたんぬ
すべしとのゝとゝなるぬぢぬろふ夢の入るぬ夢のあとこ
ねぬ。山の嵐ねとあまなるぬをとゝろ神ぬの夢と
とゝぢず。夢の御孫と常をろぬ。あさりとゝ信の夢
沼ふとゝとり深ねあとゝ夢とゝるまひぬろくしさ
やろとなく流ふ矢とゝひねんとゝ一ゝ九ぬ夢とゝり
ぐうすろぬ。ゝとあろぢあさうゝず。夢の供あゝ乳ぬ
ゝとゝぬ。ゝまとゝ大招ふとあゝれて今ゝ見ゝとあり。
十分ゝとゝりゝの時言流ふ夢ねてぬろゝ夢ゝとゝ

ゝとゝ姫ゝさゝとゝもゝゝぬぢぬふゝとゝふくふれくぬふれゝねゝと
ゝれくゝ七雨石風。七海石生のちゝとゝぬぢゝゝゝゝとゝ
ゝゝゝゝと波のゝゝゝて迷ふ迷動とゝびひゝとゝ
ふれゝゝゝるけまびぬの言ゝゝくゝとゝて義ゝゝち
ゝ花ゝゝとゝ沼ゝゝれゝぢぬゝゝとゝ彩ゝゝのゝゝれゝゝぢん
とゝぢゝゝゝ。抜ゝゝ方わゝとゝ段の信力ゝりぬよ
ゝ夜彩ひぞゝて言ゝゝれくゝふゝりてゝゝなく。
のゝてすてゝゝのゝけゝゝゝゝゝゝれゝぬゝゝ段動言
家風ゝゝゝゝゝとゝくくゝゝ波ゝゝて抜ゝ血とゝゝゝ
ゝ沼言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

八百屋家物語人
十六

米若屋家物語人
十五

[illegible]時のうつさよ沼[illegible]ていらさくりず。さんぜんあるよあつ
つらりたり。金銀とうへ[illegible]ぞ[illegible]のぞひ入
ゆうしさんろく。是と[illegible]燃の[illegible]銀よりなげうちるで。
わたなよ清浄の財宝集りぐ。拾ひ[illegible]の[illegible]銀
とろくぞ[illegible]り貧窮の雑[illegible]と言ひ[illegible]
のくわふ清[illegible]の母[illegible]ぬわ[illegible]てうどくぐ。[illegible]
をぐれく衰[illegible]なりのとせんさし。三ケのはて三石
三十三人へく合て子人の母と信ぜ。せのちれ[illegible]
すくひのつ。慶大の切法[illegible]てらんぐ[illegible]ハいりとそや
けう。命く一同よわつとうん[illegible]て[illegible]と二つ[illegible]

[illegible]ぞう[illegible]銀わしと。時はとうしさず三ケのはよ
人とわまこうつ。子人の[illegible]とくくうけ
りてどもりあ。言やむりうのんぐ。[illegible]人と絶
すさ人切法大海[illegible]ぐくとやふ[illegible]てやこれ[illegible]
子人のつ[illegible]をすくろ。半。[illegible]ふさくれ大[illegible]
銀祈ぬ仏法のうんぞうをさとこひたうまてり。
一家親類はちんだ一門眷属都て三千六百人へ[illegible]
せりろう時の物どれよ[illegible]ぞ[illegible]の門ふ
大坂の揚や町とものぞ[illegible]く[illegible]拾とみろふ[illegible]けで行[illegible]
井筒の門どぬぬ門に[illegible]面ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]